



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

2015～16年度テーマ

プロバスだより

第247号

<http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp>

2016年6月9日発行

編集・発行：情報委員会

仲間の輪を広げ、楽しみの環を広げよう

第 247 回例会

日 時：平成 28 年 5 月 12 日(木) 11:30～13:30

場 所：八王子エルシィ

出席者：63 名 欠席者 5 名 出席率 94%

(会員総数 70 名 休会 2 名)

会食とハッピーコイン披露

荻島例会委員長の合図で会食に入り、会食中に岩島副会長より 11 名のハッピーコインが披露された。(メッセージは 3～4 ページに掲載)

第 1 部 第 3 回臨時総会

- 1 永井会長挨拶 次年度の役員候補を提案しますのでご審議をお願い致します。
- 2 議長選出
恒例により議長に会長を選出。書記に吉田信夫会員、議事録署名人に橋本鋼二会員と岡部洽会員がそれぞれ指名された。
- 3 議事と結果
第 1 号議案「2016～2017 年度役員人事(案)」が岩島副会長より上程され、原案通り可決された。(別途議事録あり)

第 2 部 第 247 回例会

1. 開会 例会委員長の司会で開会、資料の確認
2. 挨拶

永井会長



第 3 回臨時総会が無事終わりました。ご協力ありがとうございました。このところ新会員が増えて心強い限りです。ご推薦いただいたみなさんのご尽力に感謝致します。引き続き一層のご協力をお願い致します。今日

はサロンの最終回です。例会後に特別講師の講演、閉講式、さよならパーティーと続きます。長い時間ですがどうぞお付き合いください。ご存知のように先月熊本で大震災がありました。私たちにできることを、と理事会で考えて義援金を募ることにしました。各テーブルに募金箱を回しますので、どうぞご協力ください。さよならパーティーの席でも参加者のみなさんに協力を呼びかける予定です。

3. 新入会員の紹介



今月は齊藤万理子さんが入会されました。大野聖二さんのご紹介です。

私たちプロバスの会合や同好会活動でいつもお世話になっている追分のグループホーム「びおら」の代表取締役で、長年介護の現場で経験を積まれています。また、「びおら」では落語会、音楽会、能の入門講座など地域の文化活動も手掛けておられます。

八王子生まれの八王子育ちで、ご自身の活動もさりながら、ご両親も地元八王子のために議員活動や地域活動などで尽くされました。

齊藤さんのご挨拶

大野さんに長年お世話になっています。いつも「びおら」をご利用いただき、プロバスの皆さまともお顔なじみです。お役に立てるかどうかわかりませんが、精一杯努力致しますのでご指導の程どうぞよろしくお願い致します。

ご挨拶の後、永井会長から会員バッジとウェルカムカードが贈呈されました。

4. バースデーカード贈呈

永井会長から 6 名の会員に池田会員手作りのバー



写真左から、山崎光子、有泉裕子、川村真、橋本鋼二、永井会長の皆さん(永井会長も5月生まれです。阿部幸子さんはお休みでした。)

5. 幹事報告

田中幹事

はじめに川村副幹事より例年通り「健康フェスタ」への協力要請に応えるための人選について、各委員会に対して依頼があった。

① 事務局の件 岡田会員の後の事務局をどのようにするかについて理事会を中心に検討中ですが、とりあえず郵便物は追分町 9-3 「びおら」に転送されるようになりました。長年担当していただいた岡田事務局長に心より感謝申し上げます。次いで岡田会員よりご挨拶がありました。



② 熊本地震救援募金の件 皆さんの協力を期待して、当クラブからも義援金を募ろうと理事会で決定。20周年のチャリティーの中から3万5千円余の戻し金を頂いているので、これも加えて送りたい。

③ 東京日野プロバスクラブから立派な5周年記念誌が送られてきています。他にも神戸北、埼玉浮き城、それに旭川からも会報が届いています。入口に置いておきますので閲覧してください。

④ 本年度の活動もいよいよ終わりに近づきました。各同好会は簡単な今年度活動報告を戸田研修委員長に提出してください。

⑤ 今日は何の日： その1「ナイチンゲールデー」赤十字社が1820年、ナイチンゲールの誕生日に因んで制定。

その2「ザリガニの日」： 1927年の5月12日、鎌倉食用蛙養殖場に餌としてアメリカからアメリカザリガニ等が持ち込まれた。わずか20匹であったが、

スデーカードが贈られました。

逃げ出した個体が爆発的に広まり、1960年代には九州でも確認される程になった。(アメリカ南部ではクローフィッシュ・フェスティバルというのがあり、ザリガニを食べるといふ話です。)

今日の誕生花：ライラック 花言葉：愛の芽生え

6. 八王子「宇宙の学校」後援会年次報告について

澤渡会員

① 昨年度は、八王子「宇宙の学校」事業への支援、広報誌の発行、5周年記念特別「輝く宇宙八王子展」の開催等、多くの事業を好評裡に終わることができました。会員の皆様にはご協力ご支援をいただきました。ありがとうございました。

② 八王子「宇宙の学校」事業の5年間にわたる着実な成果が認められ、今年度から八王子市の補助事業に認定されました。会員の皆様、関係者の努力の成果であります。今後とも八王子市との密接な連携のもとに、着実な活動を進めていきたいと思います。

③ <大学生ボランティア倶楽部>を立ち上げます。いままで会員が担当していた役割を市内の大学生に引き継いでいくことで、若手の育成を図り、併せて会員との連携協力も図っていきます。新しく東京薬科大学、創価大学の参加を期待しています。

④ 2017年の市政100周年記念事業に参加して、来年11月に「宇宙飛行士大会」(仮称)の開催を計画。

⑤ 「宇宙の学校」後援会事務所を岡田さんから杉山さんの事務所に移しました。(報告書資料配布)

7. 委員会報告

(1) 例会委員会

荻島委員長

出席会員数の報告(前記のとおり)

配布資料は例会の1時間前に受付までとお願いしてあります。時間を厳守してください。

(2) 情報委員会

土井委員長

お手元にプロバス日より246号をお届けしました。今月の担当は有泉さんです。引き続き会員の皆さんからの投稿をお待ちしています。

サロンの話し手の皆さんには抄録のまとめをお願いします。

(3) 会員委員会

馬場委員長

今日めでたく新入会員をお迎えして、現在の会員数は70名ですが、休会が2名おられますので実数

68名です。引き続き新会員の推薦について皆様のご協力をお願いします。

(4) 地域奉仕委員会 **山口委員長**

サロン 3 回目の参加者は、一般参加者 79 名、プロバス会員 56 名計 135 名になりました。4 月 28 日の野外サロンの参加者は、一般参加者 49 名、プロバス会員 33 名計 82 名でした。

サロンについてのアンケートをお配りしています。今後の参考にしますので、本日または次回例会時に必ず提出してください。

今日はサロンの最終回です。講演の後のさよならパーティーは参加者全員の懇親の場です。プロバス会員だけで固まらないで、一般会員との交流に努めて場を盛り上げてください。

長期間のご協力ありがとうございました。

(5) 八王子「宇宙の学校」 **内山副本部長**

今年度のボランティア登録者は 33 名です。お手伝いいただく日程表は次回例会でお配りします。またボランティアの全体会議を 6 月に実施しますので、ご参加ください。

(6) 交流担当 **浅川会員・立川会員**

9 月 5 日、東日本プロバスクラブ交流会が開かれます。当八王子プロバスクラブの担当になりますので皆様のご協力をよろしくお願い致します。

会場は京王プラザホテル、40 クラブ 120 名前後のお客様をお迎えする予定です。各担当は会期が近くなりましたらお知らせします。参加申し込みは 6 月例会で、最終締め切りは 7 月になります。

3 月に創立 5 周年を迎えた埼玉浮き城プロバスクラブの記念演奏会が、6 月 26 日に行田市産業文化会館で行われます。ご都合のつく方はご参加ください。

8. 同好会活動

ゴルフ **小林貞夫会員**

多摩、日野、八王子のプロバス 3 クラブ恒例の合同コンペ春の部、今回は 5 月 20 日(金)相武カントリーで行います。ところが予定していた 6 組 24 名のうち 3 名のキャンセルが出ました。

麻雀

今月は 5 月 17 日にびおらで行います。参加希望者は荻島までお申し込みください。

カラオケ **杉山会員**

関係者のボックスにお知らせを入れてあります。

9. その他 **田中幹事**

例会中にお回しした熊本支援の募金箱が、重くなって戻りました。皆様のご協力に感謝します。

10. プロバス賛歌斉唱

11. 閉会 **岩島副会長**

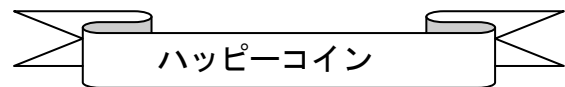
第 20 回プロバスサロンも本日で終わります。各



担当の皆さんは本当にお疲れさまでした。さよならパーティーでお互いをねぎらってください。

幹事から紹介がありました他クラブの会報を拝見しました。

いずれもよいものを作っておられますが、我が「八王子プロバスだより」は特に立派に思えます。情報委員会の皆さんの並々ならぬご苦勞の賜物とあらためて感謝したいと思います。



◆今月も新入会員として齊藤万理子様をお迎えすることができました。大いなるご活躍を期待して。

田中 信昭

◆義理の息子の実家が、熊本の益城町の隣町。今度の震災で、両親等と一時連絡が取れず心配していましたが無事が確認され安心していましたが、しかし多くの方々の死傷、家屋の損壊、避難生活と大変な状況で「アンハッピー」ではありますが、必ずや熊本にも「ハッピー」な時がやってくると信じて、あえてハッピーコインに registration します。

一瀬 明

◆本日小学校 3 年次担当の先生が 88 歳の米寿を迎えました。おめでとう。

野口 浩平

◆さわやかな五月、今年も池田さんのバースデーカードを楽しみにしています。いつもありがとうございます。

有泉 裕子

◆82 歳、これが最後と思いながら、運転免許を無事更新しました。

橋本 鋼二

◆さわやかな五月の風と共に 80 回目の誕生日を迎

えます。バースデーカードありがとうございます。
楽しみにしています。

川村 真

◆5月でまた一つ年を取ります。今年は体調を崩していましたが、やっと回復してきました。大切に生きていきます。

永井 昌平

◆学習サロン、今日はさよならパーティー。来年もまた楽しい出会いを。

浅川 文夫

◆4月の野外サロン、JALと麒麟ビールの工場見学も予定通り終わりました。バラバラになって整備される機体を見て感動！やはりまたJALに乗るぞ！皆さんお疲れさまでした！

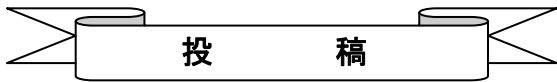
持田 律三

◆今年の野外サロンも、大勢の参加者のもと成功裏に実施できました。ご協力に感謝申し上げます。とても楽しかったですね。

飯田富美子

◆今月はドイツから娘家族がやって来て、一緒に伊豆へ旅行します。孫娘が一年一年大きくなるのを柱に記録して楽しんでいます。

岩島 寛



スポンサークラブ 30 周年(報告)

杉山 友一



我々がプロバスクラブの生みの親、東京八王子南ロータリークラブが、去る5月25日、内外からの参列者220名を迎えて、クラブ創立30周年の記念式典・祝賀会(会場:

京王プラザホテル八王子)を開催しました。

八王子プロバスクラブからは、当年度理事及び元会長が招待され19名がお祝いに伺いました。

さて、「奉仕の理想を」を標榜するロータリーは、その基本となる綱領で、1. 職業奉仕(職業を通じて社会に奉仕する、その根幹は職業倫理)、2. 社会奉仕(地域社会への貢献)、3. 国際奉仕(人道的・教育的・平和的な国際的なテーマへの取り組み、貢献)を三大奉仕活動として掲げています。

20年前の南ロータリークラブによる我々がプロバスクラブの設立支援活動はロータリーの社会奉仕活動の一環で、当時南クラブの10周年記念事業として予算100万円が生まれ、ロータリー会員の手で

プロバス会員の候補者を選出して創立会員33名で設立されたのが八王子プロバスクラブのスタートです。あれから20年、この度の30周年式典では、記念事業として、東京ヴェルディや日テレベレーザからプロ選手を招いて展開した青少年(対象300名)のためのフットサルフェスティバルの開催報告、国際奨学金団体等、それぞれに対する特別寄金の贈呈、受け入れ及び派遣の交換留学生4名の方たちによる記念スピーチなどが行われました。

続く第二部の祝賀会は、冒頭、この度の30周年を記念して編成された南ロータリー男性合唱隊が新しい



クラブソング「どんな時にも笑顔で」を演奏披露して始まりました。そして、何よりも当日の飲食・料理のコンセプトは「地産地消」で、全ての食材は肉から野菜まですべて地元八王子産ということに拘っての演出でした。改めて八王子の一次産業の力を再認識した次第です。やがて、宴も進み、今回のエンターテイメントの主役として、近年国内外で一段と知名度を上げている西川古柳座による郷土芸能、「八王子車人形」が登場、25分間の熱演でした。

やがて時計の針も21時目前となり宴も終盤です、友情出演の立場で八王子プロバスクラブ「シニアダ



ンディーズ」が舞台の上へ、「大地讃頌」と「さよなら」の2曲を披露して祝宴のフィナーレを大いに盛り上げました。会場からはアンコールの声を交えて大拍手を戴きました。今宵ばかりは、満場のロータリアンを相手にプロバスの大いなる広報活動が実践出来たとの思いです。これからも、プロバスクラブ

がロータリークラブと対を成して、地域の中でなお一層存在感を高めていけたらと願っている次第です。

今、親クラブの構成は、アクティブ会員 77 名、平均年齢 60 歳（40 歳代の会員が半数を占めるとのこと）で、我がプロバスクラブの平均年齢 77.9 歳との年齢差は約 18 歳ですが、地域内における、「壮」のロータリーと、「老」のプロバスのバランスは概ね良好な関係にあるとあって良いと思います。

この度ご協力頂いた会員各位に改めて感謝申し上げます。

「笑い」への誘い 狂言を楽しむ

内山 雅之

笑う門には福来る、とよく言われておりますが、最近の世の中を見ていると笑いが少なくなったように感じるのは私だけでしょうか。

能楽は難しく、と聞きます。

能楽とは能と狂言の総称です。一見対照的ともいえる能と狂言は同じ演技空間のなかで、交互に演じるスタイルを基本としています。能は謡と舞を中心に進みますが、狂言はセリフを主体とします。たくましく生きる中世の庶民の姿を描き出したものが多く、室町時代の現代劇、あるいは笑劇と言えるのではないのでしょうか。

セリフは室町時代の言葉遣いですが、現代人の我々でも理解しやすいと思います。聞くところによると狂言の演技の中では、「笑い」と「酔い」の表現が演者にとって難しいようです。

さて狂言演目の中で、集狂言の盗人物として分類されているものに「金藤左衛門」があります。

物語の概要は、金藤左衛門という盗賊が、山道で通りかかった女を脅し、持物を奪ったまではよかったが、悦に入ってその獲物に見入っているすきに女に長刀を取られて逆に脅かされ、獲物はもちろん自分の長刀や衣類まで巻き上げられてしまう。舞台上に独り残された金藤左衛門は泣き笑いをして去って行く、というものです。強いはずの盗賊が弱く、弱い



栗田口

はずの女が強いという倒錯のおかしみの狂言です。

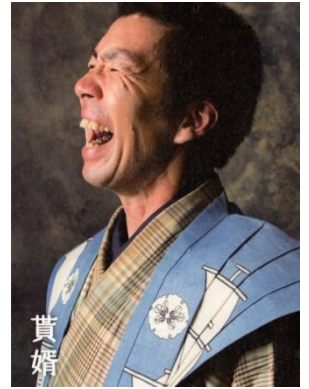
最後の部分の泣き笑いについてその難しさを茂山千之丞氏は次のように述べております。

「普通、人が笑ったり泣いたりするのは、厳密な意味では声を出しているのではないであろう。誰しも『ハハハハ - - - -』と発音しようとして笑い声を出してはいないはずである。横隔膜の急激な痙攣によるリズムカルな呼吸音が、『ハハハハ - - - -』と聞えるに過ぎない。ところが狂言では、はっきり『ハ・ハ・ハ・ハ・ハ - - - -』と発音する。これも笑い声の形式化と見るべきものであろう。泣き声は笑い声と同様に『へー・へ・へ・へ・へ・へ - - - -』と発音する。この笑い声と泣き声は狂言話術の中で最も難しいものの一つとされていて、よほど練習をしないと笑ったり泣いたりしているように聞こえない」。

泣くも笑うも演者の腕前次第ということでしょう。

さあ、難しいことは後回しにして、狂言の世界に入り込んで笑いの世界を楽しんで見てはいかがでしょうか。

さあ、難しいことは後回しにして、狂言の世界に入り込んで笑いの世界を楽しんで見てはいかがでしょうか。



賞婚

熊本震災支援 こんなことをしています

池田 ときえ

南阿蘇村に知人がいます。キルト作家の岡さんです。震災当初は連絡が取れず心配しました。無事が確認できたものの当地の被害はさまざまです。新聞報道のように南阿蘇村は道路が寸断されて、住民は他地域に出るのに大回り、遠回りで苦労していますが、復旧の見通しは当分立たないとのこと。

幸い被害の少なかった岡さんは今、地元支援に力を注いでいます。全国から寄せられる義援金はもちろんありがたいことで、行政が有効に活かしてくれるでしょう。問題は地域の皆さんの仕事が無くなることです。仕事が無くなると人は意欲を失うと彼女は心配しています。例えば、畑の作物はなにがあらうと育ちます。販売経路が途絶えて行き所のない作物を無駄にしないために、彼女は各地の友人に声をかけました。クロネコヤマトは早々と復旧していま

河合 和郎

目に青葉の爽やかな五月。句会は兼題の「鯉のぼり」で盛り上がった。しかし、自然災害や戦争の不幸など、心が重くなるようなテーマの句も数多くあった。「地震」は「ない」と読む。大地が震えるの意を表す。ご参考までに。

地震地震地震卯月の惨禍肥後豊後 東山 榮

5年前の東日本の大震災に続く熊本の大地震。1,200回を超える余震。正に打ち続く地震の恐怖。

栗若葉縄文偲ぶ小比企丘 山形 忠顕

八王子市内には縄文遺跡が数多く点在する。縄文の人も栗の実を食べていた。栗が結ぶ現在と過去。

願はくは平和な空に鯉のぼり 池田ときえ

誰もが切に願う平和な世界。その象徴としての鯉のぼりが、平らかに泳げる世界の実現を祈る作者。

魚河岸の若衆五分刈り初鯉 田中 信昭

初鯉に若衆の気風はよく似合う。今はそれほどでもないが、江戸の庶民には高根の花だった初鯉。

浅川に彩なす千の鯉のぼり 飯田富美子

浅川の上空に群れて泳ぐ鯉のぼり。今や八王子の風物の一つ。次代を担う子供たちの成長を祈って。

内緒よと頬寄す孫の汗匂ふ 立川富美代

爺婆にとって目に入れても痛くない可愛い孫の仕草。これは理屈抜きで幸せな一瞬間なのである。

谷渡し村の絆の鯉のぼり 馬場 征彦

大川を渡し、谷を渡し、各地域で鯉のぼりの群泳が見られる。子の成長から地域の絆まで。鯉よ泳げ。

塩ふりつセロリ囀む音五月くる 渋谷 文雄

爽やかに五月を詠う軽快な感性の一句。セロリを囀む音は正に五月の音そのものなのである。

地震の地に命かがやけ鯉幟 河合 和郎

放射能禍で人の住めない村に鯉幟が泳ぐ。“お祝いだけは産土の地で”という切ない思いが胸に迫る。

す。5月はアスパラ、6月はメロン、7～8月はトマト、9月は新米。10月以降は味で評判の九州米、これは通年扱っているとのこと。

そのほかにも当分観光客を見込めない加工品業者の商品もあります。阿蘇白川の清冽な水、味噌、醤油、酢など、いずれも一口5千円のセットになっています。

私も近い人たちに声をかけていますが、皆さんよく協力してくださって感謝です。

先日届いたアスパラはサイズ不揃いながらドーンと3キロ、畑から直送ですから新鮮で、分け合った娘が「おいしい！」とメールをくれました。

なんによらず地産地消を目指したいところですが、この一時期をしのげば少しずつ日常に戻れるであろう南阿蘇、ささやかながらしばらくお付き合いをしようと思っています。いつも額を作ってもらおう中松の木工所には、この時とばかりに手のかかる額をお願いしました。

もうひとつ。菊陽町にも民生委員を務めている知人、満田さんがいます。「長引く避難所暮らしの方たちに絵手紙でも描いて楽しんでもらえたらいいのだけれど」とつぶやきが届きました。

こちらから差し上げるお見舞いの絵手紙もいいのですが、被災者の皆さんも発信したいことがたくさんおありでしょう。すぐに使えるようなものをと絵手紙仲間に声をかけ、クマモンの消しゴム印と無地はがき、黒スタンプ、絵のあるはがき、ボールペン、切手など200枚分を届けました。

ゴム印は押すのも楽しいから、遊び心ではがきに押ししていただきましょうか。

満田さんから「まずはボランティアの皆さんにお礼状を書きました」とご報告がありました。担当地区のいろいろな施設や団体に活用していただけるそう、にわか作りの拙いものでも、少しはお役に立てると思うとうれしい限りです。

繰り返して起こる震災にその都度心を痛めてきましたが、今回は親しい知人がいたことで現地の苦労をより身近に感じました。

この日本列島に住む私たちは運命共同体、いつでも起きて不思議はない震災は他人事ではありません。その時その時に出来ることをしてお互いに助け合わなければ、とあらためて思います。

編集後記：爽やかな風の中で今年のプロバスサロンが終わりました。期中に新しい出会いがいくつかありました。このご縁を大切にしてお返しにしたいものです。元気でまたお会いしましょう。編集担当 池田